

『かいじゅうたちのいるところ』

～一年生 こくご <としょかんへいこう> 41ページ～

モーリス・センダック さく

じんぐうじてるお やく



とても有名な絵本です。映画化もされています。きっとご存知の方も多いでしょう。

大胆な構図に目を奪われますが、それとはうらはらな細やかな線を何度も重ねた繊細な絵に、子どもへのあたたかな視線を感じます。

ストーリーは、小さな子どもなら一度は夢想したことがある、かいじゅうの世界。夢の中のかいじゅう達は、巨大な体でおそろしい黄色い目をしています。キバとツメもすごくこわいです。

でも、主人公のマックスの<かいじゅうならしのまほう>で従順になったかいじゅう達はどこかコミカルなうごきとページからはみ出さんばかりの図体で、所せましと動き回り読み手である私たちを魅了します。それと同時に「まほうの効き目がいつ切れるのか」と、ドキドキしてしまいます。かいじゅう達のギョロリとした目玉は、笑っているようでスキを狙っているようにも見えます。そして結末は…

何度読んでも、いつも違うところが目につく絵本です。

●読むのにかかる時間 10分

●絵本 40ページ

●富山房